

宮本 亜門氏 「伝えるチカラ」



Vol.
005

関西国際学園 初等部・中等部
学校説明会 編入説明会 見学会（要申込）

- 6月12日（日） 第1回 学校説明会
6月18日（土） 文京校 学校説明会
6月21日（火） 第1回 初等部編入説明会
7月10日（日） 第2回 学校説明会
7月19日（火） 第2回 初等部編入説明会
8月13日（土） 第3回 学校説明会
9月20日（火） 第3回 初等部編入説明会
9月25日（日） 第4回 学校説明会
10月22日（土） 第5回 学校説明会
10月25日（火） 第4回 初等部編入説明会
11月22日（火） 第5回 初等部編入説明会
11月27日（日） 第6回 学校説明会
1月24日（火） 第6回 初等部編入説明会
2月21日（火） 第7回 初等部編入説明会

初等部 学校見学会・体験授業 6月22日(水) 7月5日(火) 7月12日(火) 9月28日(水) 11月2日(水)

中等部 学校見学会 7月14日(木) 9月27日(火) 11月8日(火)

▶初等部入学試験 9月10日(土)・11日(日)／10月30日(日)／12月11日(日)／1月29日(日)

▶中等部入学試験 12月11日(日)／1月29日(日)

関西国際学園 スポンサー企業一覧

株式会社
廣田康之事務所

豊かなコミュニティづくり
MORIS

Well Holdings
株式会社 ウエルホールディングス



入学（編入）に関してのご相談は、お気軽にお問合せください。

関西国際学園 初等部・中等部 TEL.078-882-6680

関西国際学園
公式Facebook

記念講演 違うから面白い、
伝えるチカラ 違わないから素晴らしい。

2016.04.18 / KIA Black Box Theatre

2015年7月26日 朝西国際学園 神戸校 1F カフェテリアにて

劇場の奈落で見たものと、僕が好きだったこと。

僕は優等生とは正反対の人生を送ってきました。今は生きていることが楽しくて仕方がないですが、子どもの頃はこんなに楽しいと思いませんでした。そんな僕の小さい頃の話です。

今、僕がいるのは父と母がいるからです。母は舞台が大好きでした。父は慶應が大好きなおぼっちゃんでした。両親は駆け落ち同然のように出会い、僕が産されました。二人は新橋演舞場の前で喫茶店を始めました。小さい頃は、暇があると劇場に行っていました。

有名な歌舞伎役者や名優が喫茶店に来られましたし、楽屋へコーヒーやサントイッチを届けに行きました。

5～6歳の頃、楽屋へ出前に行く母に付いて行きました。楽屋へ行くには舞台の下にある奈落を通ります。真っ暗な奈落を歩いていると、真ん中あたりに白塗りをした歌舞伎役者さんが座っていました。すると突然、拍子木の音が聞こえてきて、天井の蓋が開きました。照明が一筋ふわっと入ってきて、役者さんを載せた台が上がっていきます。それまで役者さんは不安そうな顔をして下を向いていたのに、その時、急に、眉をつりあげ、目をぐわっと開けながら上がっていったんです。観客席から拍手が響き、異常な興奮の中にその役者さんは吸い込まれていきました。すごいと思いました。僕は舞台が楽しいとか、素晴らしいとか表だけを見ていたけれど、裏ではみんないろんな苦労をして、悩んで、辛くて、だけど、最高の舞台を見せようと必死になっているとわかったんです。ものを作る方に興味を持つようになりました。

舞台もこれまでより好きになりました。中でも、親子獅子という歌舞伎の演目は大好きで、踊れるようになりたいと、歌舞伎の藤間 勘十郎ご宗家で稽古をするようになりました。小学校のとき、その踊りの発表会があり、翌日におしろいが残っていたことがあります。学校で「宮本君、ここ白いよ、おしろいついてる」「おっかしい、女みたい」と笑われました。踊りの発表会に出たと言うと、「男の子が踊り～!？」となりました。「踊り」はほんとうに面白いですし、そこで真剣に生きている人たちがいるのに、「僕が好きなことをみんながおかしいと言う。普通じゃないんだ」と思いました。その後も茶道や、中学生の頃は仏像鑑賞というように、僕は好きなことが人と違ったんですね。でも人と違ったから、演出家ができている。「普通はこう考えるよね。でもそれじゃつまらない。もっと違うなにか、もっと違う発想はないの？」そう考えることが大事だと思っています。



0
3

引きこもりと、ありのままの僕を受け止めてくれた精神科の先生

好きなことを理解されないために、人としゃべらなくなり、高校生の時に引きこもりました。僕の部屋は内側からカギがかかり、引きこもりには完璧。まだインターネットではなく、クラシックやミュージカルのレコードを何百回と聴きました。1回目と2回目ではぜんぜん違う。同じ1曲の中にいろんな表現が入っていて、自分の耳や心がその時に何を読み取るかなんです。何回も聴いたことで、こういう表現もある、ああいう表現もある、ああこんなに素晴らしい世界がある、と。僕は部屋の中で演出家でした。

1年間くらい経ったある夜、酒に酔った父が母ともめっていました。理由を聞くと「おまえが学校にいかないからだ」と怒鳴られ、家宝の日本刀を持ちだし追い回されました。父が寝た後、母に「明日から学校に行かなくていいから約束してほしいことがある」と言われ、病院(精神科)へ行くことになりました。先生は想像外の人でした。僕を見てニカッと笑い「引きこもり？面白いね」と。バカにされているのかと思いましたが、すごいことに、先生は何も否定しない。「いいねえ」「そんな考えもあるの」「へええ、面白い」。どんどん楽しくなり、30分もしやべっていました。僕のありのままを受け止めてくれたんです。少し楽になりました。みんな、自分を変だと思っていると悩んでいましたが、みんなも自信がなくて自分のことで精一杯だった。だから、マニュアル通りに生きようとしていると気付いて、学校にも行けるようになりました。

0
4

母の死に背中を押されてブロードウェイへ

大学の芸術学科演劇専攻で演劇を学び、ダンサーとしてミュージカル「ヘアー」にも出演が決まりました。渋谷のパルコ劇場で最終リハーサルがあった初日の前夜、一人暮らしのアパートに帰ったら母が浴室で倒れていて、2時間後に亡くなりました。母は「甘えちゃダメだよ。本物になりたいんだったら厳しいけれど、頑張って」と言っていました。演劇の世界はほんとうに厳しい。母が亡くなって初めて、その厳しい世界に立ち向かう勇気を持てたのだと、後で思いました。

実は母が息を引き取った後、どうしようもないと思っていた父が、母の後頭部を抱いてキスをしました。あんなに美しいキスを、人生の中で初めて見ました。夫婦仲が良くないと思っていたのに、僕には分からない愛情があったんです。その時から、僕はオヤジを愛することに決めたんです。広い地球の中で人は出会い、あるときは愛し、あるときは悩んでいるのだと思いました。

2ヵ月後、「ヘアー」の舞台を終えたとき、父はご飯も食べず、ふぬけのようになっていました。僕がケアをしていましたがこのままじゃ二人ともダメになります。「おふくろが見てるぞ。僕はニューヨークに行く。ブロードウェイのショービジネスで生きる」と決意しました。それが、ブロードウェイに行った最初です。「よおし、ここからやるぞ。人生、リセットだ。命をかけりやなんだってできるんだよ」。演出家になりたいと思いながらも、なかなかなれませんでしたが、87年に「アイ・ガット・マン」でようやく演出家デビューを果たすことができました。

自分を知り、バランスの大切さを知った「沖縄」との出会い

今は沖縄に住んでいます。悩んでいたときに、沖縄でいろんな出会いがありました。

一つはヤギです。沖縄に住もうかなと思ったときに「ヤギ殺せよ」と言われ、意味がわかりませんでした。沖縄では家を建てるときに、ヤギを殺して汁や刺身にしてお祝いをするそうです。沖縄独自の文化ですね。準備をしておくと言われて、こわごわその人の家に行くと、トラックが4台止まっていて、1台にヤギが乗っていました。後の3台から、男たちが鍋や包丁を持って降りてきて、みんなで細い道を海へ下りていくわけです。そこに、ガジュマルの木に囲まれるように小さな小さな砂浜がありました。昔からヤギを殺す場所だったそうです。

みんなでお弁当を食べて、ヤギもメエメエうれしそうに鳴いています。ところがリーダーが、「さっ、始めようね」と言った瞬間、ヤギが急に逃げようとしました。手足を縛り、ガジュマルの木に逆さまにヤギを吊して、ノドを切るんです。なんて残酷なんだろうと思いました。ところが、そのヤギをバーナーで焼いてさばいたら、店頭にある肉と同じよう見えるんです。普段食べているお肉も魚も鶏も、ぜんぶ命があるんです。品質がいいとか、高い安いではなくて、僕たちはすべて命があるものをいただいている。それを忘れたらダメ。今自分が生かされているというのは、すべての命をいただいているからだと意識してほしいです。

もう一つがソーキソバの話です。お店でそばを注文したら、店のおばあ(尊敬語です)がスープの中に親指を入れて運んできました。お客様が「おばあ、指入ってるよ」というと、おばあは「大丈夫、熱くないさ」とうれしそうに厨房に戻っていったという笑い話です。僕はソーキソバを注文して、真ん中にゴキブリが浮いていたことがありました。「おばあ、おばあ、入ってる」と呼ぶと、やってきたおばあが器を見て「こわいさー」と厨房の中に入って震えている。ティッシュで5分くらいかけてゴキブリを取りました。「なくなつたよ」というと、おばあは厨房から出てきて「はあ、こわかったさー」と言いました。僕は、そのおそばを全部食べました。そういうことは多々あります。沖縄、すごいでしょう。みなさんならどうしますか。もし、自分のお母さんが持ってきた料理にゴキブリが入っていたらと考えてください。沖縄では全員が家族なんです。わざとやっているわけではない。人間、間違いがあってもいい、失敗があってもいい、それを大らかに話して笑い合う、それが僕の望む人間関係です。沖縄にはそんな風土があり、笑い合える人たちがいます。

初めに言いましたが、僕は今、生きていることが楽しくて仕方がない。これまで生きてきて、自分の生き方と周りの人の協力があれば、「人生が変わる、変えることができる」と知りました。みなさんは何のために生きているのですか。人生を最大に楽しむためでしょう？

人生短いです。存分に知りたいことを知り、学びたいことを学び、経験を膨らませてください。

COMMEMORATIVE LECTURE AMON MIYAMOTO

Kansai International Academy Presents



2016年4月 関西国際学園 神戸校 新校舎竣工！



KIA Black Box Theatre

「ブラックボックスシアター」と聞いて、なぜそのようなものが学校にあるの？と疑問を抱く方もいるでしょう。

そもそも「ブラックボックスシアターって何？」と思われる方もいるかもしれません。

KIAブラックボックスシアターは、子どもたちの想像力（創造力）を拡げる変幻自在な空間です。

デザインは、全面真っ黒。舞台も、客席もないシンプルな黒い空間です。そして空間を作る舞台照明、巨大な映像を映し出す3面のスクリーンと包み込むように響き渡る音響システムを兼ね備えています。

デザインをできる限りシンプルにすることで、子どもたちに先入観を与えず自由に表現する機会を与え、最先端の設備で、その無限の想像力を具現化します。

KIAのようなブラックボックスシアターがある学校は日本にはありません。

子どもたちは自分の無限の創造力が、カタチになる瞬間を学校生活の中で体験していきます。

真っ黒で真っ暗な創造的空間

—さまたげるものが無い自由な空間で、子どもたちの創造力を無限大に引きだす—



初等部・中等部入学式

2016年4月9日に、神戸芸術センターで初等部・中等部の入学式が行われました。

初等部は51名、新しく開校した中等部は5名が入学し、大勢の保護者や教師が、これから関西国際学園の未来を形を作っていく子どもたちを祝いました。

また今年の入学式ではカリキュラム・ラボの顧問でもある茂木健一郎先生が駆けつけてくださり、子どもたちと保護者の皆さん、そして先生たちに向けて英語と日本語で話をされました。
 「この学校で学んだことが将来、必ず実を結ぶ。ここで行われていることが将来スタンダードになっていく」と力強いエールを送ってくださいました。



初等部の6年生の児童3名が全児童を代表して新一年生を歓迎し、そして中等部の代表生がこれからの決意を表明しました。どちらも日英バイリンガルでのスピーチでした。入学式のフィナーレを飾ってくださったのは、オペラ歌手の鈴木慶江さんでした。プロとして活躍する最高の歌声を披露してくださいました。

数年前まで全校児童50名ほどだったので、今回は大きな入学式となりました。多くの保護者が学園の教育を信じて大切なお子さまを預けてくださっています。その期待に真摯に向き合い、「国際社会で貢献できるリーダーの育成」という理念がすべての子どもたちにとって現実のものとなるよう、今年もスタッフ一同、精進してまいります。

中等部始動！

関西国際学園の新たな一章が始まりました。

株式会社としての保幼小一貫教育をさらに広げ、中等部が開校しました。

意欲に満ちた5名の生徒を迎え、これから世界に、はばたく未来のリーダーが学園をさらなる高みに導いてくれることでしょう。

中等部開校から1ヵ月が経ちます。英文学の授業ではハリー・ポッターの本を読んで自分のオリジナルの一章を書き上げました。

英語未習で入学した生徒も、学校を英語で紹介するビデオを作成するなど、早く習得しようと奮闘しています。



理科の授業では5月末に行われるKIAフェスティバルのサイエンスショーに向けて準備をしています。エネルギーの概念を学びながら、それを活用したパフォーマンスを練習しています。また英語だけでなくフランス語の授業もあり、金曜日には乗馬教室にも通います。

中等部の生徒は間違いなく初等部の子どもたちの憧れとなっています。
 「この学校を背負っていきたいです。」

入学式での力強い宣言が、着実に一步ずつ現実のものとなっていっています。

DeNA ×



日本人がこれから、
世界で活躍するための必須プログラム！

DeNAの協力のもと、世界水準のプログラミング
教育を初等部1年生より実施しています。

「プログラミング」それを、初等教育で！

プログラミング教育を、すそ野を広げ学ぶことこそ、日本の課題を解決するひとつと考えています。
現在の日本の教育は「間違えない達人を量産する」という、ひと昔前の産業にはベストな人材教育をしています。
今、日本の労働力に大きく期待されていることは、さらなる斬新な課題の解決力や創造力。
これは答えがひとつという「間違えない達人の教育」ではなく、「いろいろな答えがあって当たり前」が大前提の
プログラミング教育だからこそ生まれる力なのです。

DeNA 監修

2015年度から関西国際学園 初等部カリキュラムに「DeNA」監修のもと、1年生からの全学年に「プログラミング」を正式導入しています。

コンセプトに込める想い

プログラミングを知り、日常の思考にもより豊かな発想が生まれ、さまざまな疑問を抱き、解決していく
楽しさを身につけてほしい。また、「情報技術」を正しく知り、体感的に学ぶことで、今まで出てこなかった
個性的なアイデアを、そして日本人ならではの発想と特性を生かした価値を生み出し、世界に発信して
ほしいと願っています。

〈ご案内〉

なによ東大！ されど東大！

東京大学に在籍したから話せることがある！
個性豊かな4人が現在・未来の日本のことや教育・ビジネスのことを
独自の視点で軽快に繰り広げるトークセッション！



7/24(日) 会場: KIAブラックボックスシアター
開場: 13:30 開演: 14:00～ ●入場料: 3,000円 ●定員: 100名
右記QRコード、もしくはURLからフォームに
アクセスのうえ、お申込みください。
<http://goo.gl/forms/5GhFPzraLJ>



リヤドロ ウィメンズアワード2016



中村久美子・関西国際学園 学園長が受賞



受賞した中村久美子・関西国際学園 学園長は、長男に通わせたい幼稚園がなかったことから、日々変化し、グローバル化するビジネス界に適応できる人材を育てたいと思い、幼児に向け日英のバイリンガル教育を行う関西国際学園を2001年にスタート。翌年には小学生を教える初等部を開校。現在は関西、関東併せて12校を運営している。今春には中等部を開校した。

学園長コメント

開校して16年が経ちました。最初は7人の生徒でスタートしましたが、現在は、1200人の生徒がいます。教育に携わっていて、こんな華やかな賞を受賞して良いものかとも考えましたが、ここに立てているのは皆さまのおかげ。今回の受賞は、学園開校時の7人の生徒のご両親に捧げたい。